

# れいわPRESS 第18号

山本太郎代表、  
参议院議員を辞職



れいわ新選組の  
代表であるということは、  
変わりません

# 参議院議員を辞職

れいわ新選組の代表であるということは、変わりません

2026年1月21日、れいわ新選組のオフィシャルYouTubeチャンネルにて、山本太郎代表が参議院議員を辞職すると発表。血液のガンの一步手前にいる現状を明かし、命を守るため、無期限の活動休止に入ることを決断しました。

代表の議員辞職表明を抜粋してここに掲載します。

私山本太郎は、本日参議院議員を辞職します。

衆議院選挙のためではありません。健康上の問題です。端的に言うと、多発性骨髄腫。血液のガン、その一步手前にいます。ここから先に進行しない、させないということを経験した。マに、今生きなければ、命を失いかねない。なので議員を辞職して、自分の命を守る行動に入ります。いつ最前線に帰ってこられるかはわかりません。

これから無期限の活動休止に入ります。

これまで山本太郎を国会に押し上げてくださった有権者、支援や応援をくださったみなさま、これまで支え続けてくださったボランティア、関係者のみなさん。このようなことで、任期満了できないことを心よりお詫び申し上げます。

秋に人間ドックを受けたら、3つの項目で再検査が必要だという結果が出まし

た。

そのうちの2項目は再検査で問題がなく、3つ目で血液が引っかかったんです。骨髄液も採った結果、多発性骨髄腫の1つ手前にいる状態だと判明しました。

一般的には多発性骨髄腫っていうのは、高齢者になられる方が多いので、山本の年齢、51歳というのは、この病気になるのは早いという感覚だと、担当の医師からも言われました。

まだ細胞分裂が活発な年齢であり、それが血液のガンになったら、広がるのも一気だ。そういうことだと思っんです。

だからこそ、その手前で全力で食い止める必要があると考えました。

私の身体のことにはプライバシーに大きく関わることで、病気になることについて、説明は、ここまでとしたいと思いますが、どうしてこうなったんだろうと自分なりに考えた時、過度なストレスが最も大きな原因なんだ

ろうと感じています。

**10円ハゲや500円ハゲが毎年できていた**

例えば、政治に関わったこの14年間を思い返してみたら、頭に10円ハゲや500円ハゲが毎年できていたんです。多い時で年間5〜6箇所。少ない時でも、年間2〜3箇所必ずできています。

毎年それだけコンスタントにできること自体が、普通に考えれば異常だった。身体は確実に、悲鳴を上げて続けていたんだなって、今なら思えます。

2011年の東電原発事故をきっかけに政治活動を始めて、2013年無所属で国会に送っていただきました。本当に、右も左もわからないってところから、議員としてのキャリアを積ませていただいた。支持者、支援者、国会職員のみなさん。そして、よその党、他党の先生方にも育て

ていただきました。

特に自分の中でこだわりを持って譲れなかったものは、国会の質疑。

準備の段階から、連日午前様。誰に言われるわけでもなく、強制されるわけでもなく、自分の意思でとんまで、完全燃焼を指す14年間でした。

最後の最後は、安保法、TPP、共謀罪、移民推進法、などに対して直接行動。牛歩つてやつも、一人やってきたんです。

国会での活動というのは身体的、精神的に、かなりのプレッシャーがかかる作業の連続でした。今自分の出せる力を200%出し切ることをテーマにしていた毎日だったんです。充実したものすごくしていただきました。

**2019年、一人で「れいわ新選組」を旗揚げ**

2019年には、山本太郎一人で「れいわ新選組」

# 山本太郎代表、



## 血液のガン その一步手前にいます



を旗揚げしました。

それに呼応して、全国のみなさんが力を貸してくださった。結果、14人の国会議員と、全国に60人を超える地方議員が生み出されました。

旗揚げからこれまでで国会の外と中を繋ぐ活動として、とにかく全国を回るんだということをやってきた。例えば、消費税廃止デモ。政党がデモを主催するなんて、あり得ない話なんですけど、消費税廃止デモは全国で122回、おしゃべり会は、全国で437回、街宣は607回。

とにかく1人でも多くの人々に伝えなきゃっていう思いで、全国を走り回ってきた、そんな日々でした。

「死ぬ気でやってみ？死なねえから」って言葉をご存じですか？

私も、いい言葉だなと思ってたんです。言われるまでもなく、私はこれまで勝手に、死ぬ気でやってきたんです。

毎日今日が人生最後の日

だ、そう思いながら、自分を追い詰めて、力を振り絞ってきたんです。でも死ぬ気でやり続けたら、本気で本当に死んじゃう手前まで来ちゃったっていう。これ本当に、笑い事じゃないんですよ。

### 永田町唯一、空気を 読まないプロ集団

今後について、私がいわ新選組の代表であるということは、変わりません。私はポイントポイントで、必要な意思決定を行うとか、業務量をさらに大幅に減らした対応で、関わって参ります。

山本太郎以外目立った人いないじゃない？って言葉が続けてますが、とんでもない。それぞれの分野でエキスパート揃いの議員たち。そして、水面下で様々な力くださる、優秀なスタッフが大勢いるんです。

永田町唯一、国会の茶番に与しない、空気を読まない

いプロ集団です。

旗揚げから6年間、地道に積み重ねてきた仲間たちが、さらに活躍する期間になつていくことを確信しています。

支持者、支援者のみなさん。山本太郎は一旦、最前線から撤退しますけれども、私が再び国会に戻れるまで、れいわ新選組を育て、支え、もつともつと、大きくしてください。

太郎推しだったのに、つて方も中にはいらつしやるかもしれない。しばしの間「押し変」したりとか、太郎のジエネリックスを、れいわの中で見つけていたいただきたいと思います。

非常に魅力的な議員が大勢いますので、世の中を変えていくことに対して、燃えていただければという風に思います。ここから先も、腐った世の中、一緒に立て直していきましょう。

# 役員会にて、代表の挨拶

山本太郎一人だけの党だろうって失礼なことを散々言われ続けて来たと思うんです。でもそうではありません。みんなが一人ひとりが個で立っていける、戦っていけるグループを目指して行く必要がある。政党なんて、その先どうなるかわからない。どうなったとしても、自分は立って行くよ、やって行くよという強い意志を持った人々が集まった、れいわ新選組。

最初は山本太郎一人だった。一人の本気の間が動いたことで、これだけ本気の間が集まって来たということです。ここからが始まりですから、ひっくり返しに行きますよ。よろしくお願いします。

山本太郎



永田町にはめっちゃ悪い人間いっぱいいるのに、なんで代表ばかりそんなことにならなあかんの。めっちゃ腹立つし。(やはた愛)



2026年1月21日に開催されたれいわ新選組の役員会・臨時総会にて、山本太郎代表は所属構成員に直接、議員を辞職することを伝えました。

# これで終わり、 じゃない、 ここから 始まるんだ



2026年1月21日に不定例記者会見を開催し、記者からの質問に答えた。その一部を抜粋します。

## なぜ代表はお辞めにならないのか？

この3年間の間に共同代表、幹事長と共に、本当に長い時間議論をしながら、れいわとは何か、どう向かうべきなのか？ 散々討論してきました。その間に、私が活動休止になってもちゃんと回っていける体制っていうものは既につくられたよな、と。その中で、問題などが起こって何かしらジャッジに困るときには、ポイントポイントで私も関わる。そういう安心材料があった上で、運営していく。

また、永田町の中では「れいわさん、そんな突っ張ってないでさ」みたいに懐柔政策みたいなものがとられます。今の共同代表はそこに妥協するというような考えはないんですけれども、れいわの意思というものを貫くためには、やはり私自身が代表という立場に居続ける必要があるだろうという判断です。

**奈良地裁が安倍晋三元首相を銃撃し殺害したとして、被告の山上徹也さんに対して無期懲役の判決を言い渡しました。この事件では、いろいろな統一教会との関係などが注目されましたが、代表の受け止め方は？**

安倍さんが銃撃されたということは本当に悲しい出来事ではありました。山上という方の家庭環境が、統一教会に家族も人生も奪われたというような状況において、その宣伝の先頭に立つ、この国のトップ。そこに対して、凶行に及んだということもあったと思うんです。

何より一番重要なことは、こういう類のことの再発を防止すること。そのためには、事件にどういった背景があったのか、細かな調べや専門家の意見、いろんなものを合わせた上で、結論が導き出されることが一番望ましいと思いますが、今はそれがなされていないという感想を個人で持ちます。

## 国内政治では、高市総理による悪辣ともいうべき抜き打ち的な解散。世界に目を向けると、アメリカのトランプ大統領によるベネズエラへの侵略。こういった全体状況をどう見ている？

まさにカオスという状況だと思えます。30年国が弱っている。30年国民がないがしろにされ続け、貧しくさせられて、格差が開いて、働いても働いても豊かにならないという生活になっちゃってる。これを続けた先には国民が大爆

発する以外は方法が残ってない状況。で、それを帳消しにするという方法が1つ。戦争ですよ。戦争というのはビジネスですから、戦争になったときに何かしら、「私たちの生活を」という言葉が聞かれたとしても「今戦争中だぞ、おまえ非国民か？」と言われる。そんな過去にされたようなことを、これから先、繰り返される可能性が非常に高い。雇用破壊、労働者の環境の破壊。税金の取り方を歪めて、金持ちをもっと金持ちに。大金持ちなんてこの2年で105兆円、新たな資産を増やしています。

持つてる人は持つてる、持つてない人はより増えていくということが当たり前のレストランドになっちゃってる。

この状態の中で、イデオロギ―ではなく、この国に最も必要なものは何か？ 大胆な経済政策です。小手先の「食品だけ減税」とか意味不明なことではなく、根本的にこの国の需要、内需を大きく底上げしていくことを大胆にやってみなければならぬ。大規模な経済対策と、そして積極的な平和外交、これらをなくして日本の未来はないし、そういった当たり前のことを、多くの方々にはわかる言葉で、国会の中から外から、揺らして

いくしかないんだろうと思います。

## 原発含め、被災地の方たちへメッセージをお願いします。

原発が爆発することになった理由は何ですか？その地域住民の方々が爆発させたわけじゃない。被害者に対して国は未来永劫、経済面でも、健康面でも補償を続けなきゃいけない。当たり前の話です。

もう1つ、災害。この国において災害は、自己責任です。災害が起こった直後は国がしっかりとサポートをしたり、人を出したりしますけど、それでも足りていない状況。時間が経てば経つほど報道にも載らなくなってくる。結果、残されるものは、福祉や、さまざまな隙間で落ち込んでしまってる人たちです。

こういう人たちが救われないう状況が、災害が起こるたびに現れてくる。自治体の首長でも適当なことを言います。政府に抗ってる風に見られると損するから。「政府はよくやってきてます」って言うっちゃうくらいです。よくなんてやってませんよ。住民の声、聞けよって話なんです。

「復興なくして日本はなし」みたいな言葉だけ踊って実際には放置され続けている人た

ちがまだまだいる。そういうところの切り込んでいくのは私のスタイルでもあるし、れいわの基本的な部分だと思ってます。私がそれができなくなったとしても、議員活動として続けてくれる仲間がいわの中にはいるので、みんな力を合わせてやっていくしかないです。

能登半島地震、2024年、その最初の時期に、最初の予算のときに補正予算までつけられたはずなのにそれさえもしなかった。狂ってますよ。狂ってる。

やはり人々の目線で泥水をすすりながらも前に進んでいくぞ。そしてこの国の本当にひどい部分を炭鉱のカナリアとして国民にシエアしていきながら、力を合わせてひっくり返しに行こうぜっていうムーブメントは、おそらく、れいわ新選組しか今のところないんだらうなという風に思っています。そう考えるならば、やはりこのプラットフォームというものは、より強固になつていくしかないかな、そう思います。

## 中道改革連合という新党に對しての思いは？

30年、経済を落とし続けたマヌケな自民党から離脱した公明党をありがたがって、こ

の国を壊すことに加担してきた民主党が合体した。そこで何かしら新しい選択肢みたいな希望を持つてる人がいるかんの？って。日本をダメにしてきた者たちが、もう一回看板付け替えて、もう一回詐欺やろうとしてるぜって話ですよ。これについて国民がしっかりと理解しないと、いつまでも食われるよって。

看板を付け替え正体を変えて、国民を騙しにかかるというのが私、中道だと思ってる。何なんだ？中道って。創価学会と連合だらうって。すいません(笑)。仏罰下ればいいのになと思ってます。こういう嘘つきどもは。

## れいわ新選組の支持者、権者に向けて、改めてメッセージを。

政治に関わって14年くらい、そんなひよつこの私が政治について語るなんておこがましいですが、政治って短いスパンではかれるものではないと思ってます。長いスパンで見

ていかなきゃいけないものを、今は短期的にそれを評価されるのが非常に当たり前になつちやってます。これ、消費される対象になつていってことですよ。

今のこの局面を見るならば、

例えればれいわ新選組の中心メンバーがバンドをやつて東京ドームを目指していたとして、途中でボールが健康を害して一旦活動休止することになった。じゃあ、残りのメンバーはどうするんだ？となつたら、他に歌える人をボールにしながらドームを目指していこうぜ、と。私たちの中間でいうのは政権交代という意味合いもあると思うんですけど、感覚的にはそんな感じですよ。

## 「これで終わりじゃない、これから始まるんだってことです。」

この国において、国会が茶番だつて常に言い続けていきます。だって、みんな仲良しでやってるほうが楽なんだし、最後の最後まで体張る人なんてほとんどいませんから。炭鉱のカナリアとして、れ



いわ新選組っていうのはここまで来た。国民の生命、財産を守るためにも、政治の嘘、データラメというものを最後の最後まで国民にお伝えしていきますながら、この先、変化させていく。

みなさんにボタンを引き継いでいただいて、山本太郎が戻ってくるっていう時に、更なる拡大が目指せたら最高じゃないでしょうか。



## 共同代表、 幹事長(当時)から 山本太郎代表へ 一言

### 大石あきこ

「暴走車、止まる時まで急だった」という辞世の句を詠みたいと思います。客観的に見たられいわの存亡の危機に入るわけですが、議員や支持者のみならず、ボランティアのみならず、このピンチをチャンスに変えていきたいと思っています。最大の原因がストレスだというのはよくわかります。山本太郎さんという人は非常に人間らしい。あまりにも乾いている国会に、人間らしい人が飛び込んできた。これが国会を変

える展望だと思ってきました。だから、私もそのような生き方がしたいと思って目指してきたんです。でも、国会の中で人間らしくしようとしても、やっぱり不謹慎だとか、大人しくしてろって声があるんですね。人間らしい山本太郎さんにとって、いかに息が詰まったか。そういう状況の中でも、たった一人で始めたこの国民運動。消費税廃止を始めとして、この国に生きる人が生きてよかったですと思える社会をつくるんだっ

て歯を食いしばって、すごいストレスの中でやりきっていたと思うし、暴走していたと思うし。だからストレスを完全に発散していただきたいと思っています。もう完全に遊べ。むちゃくちゃ休めっていう。好きなこと、楽しいことやってほしい。その中からしか、この世界の危機、この国の危機を脱するアイデアも出ないかなって思いますので、人間らしく、山本太郎らしく、まずは過ごしてほしいです。

### くしぶち万里

すべてのストレスから解放されて、政治家山本太郎ではなく、人間山本太郎の生きる力を最大化させる選択をしてほしい。代表が選択したのは、代表は続ける、議員は辞職する。「生きててくれよ」という代表の言葉に多くの国民が希望と勇気をもたらしたように、今度は私たちが代表の希望であり勇気になれるよう、れいわ新

選組の船のエンジンになるときだと受け止めています。でも代表には引き続き、その船の舵取りをお願いをしたい。そして支持者のみならずボランティアのみならずには自信を持ってほしい。なぜなら**世の中を変えるツールは既にあるから**です。それが山本太郎代表が命懸けで築いてきたこのれいわ

新選組。世界も日本もこんなに大きく揺れる歴史の渦中だからこそ、真つすぐブレずに軸を立てている集団です。今までは代表がたった一人で始めた闘いでしたけれども、6年経ってたくさんの仲間ができた。**これからは私たち一人ひとりが山本太郎になる、そのときだと思っています。**

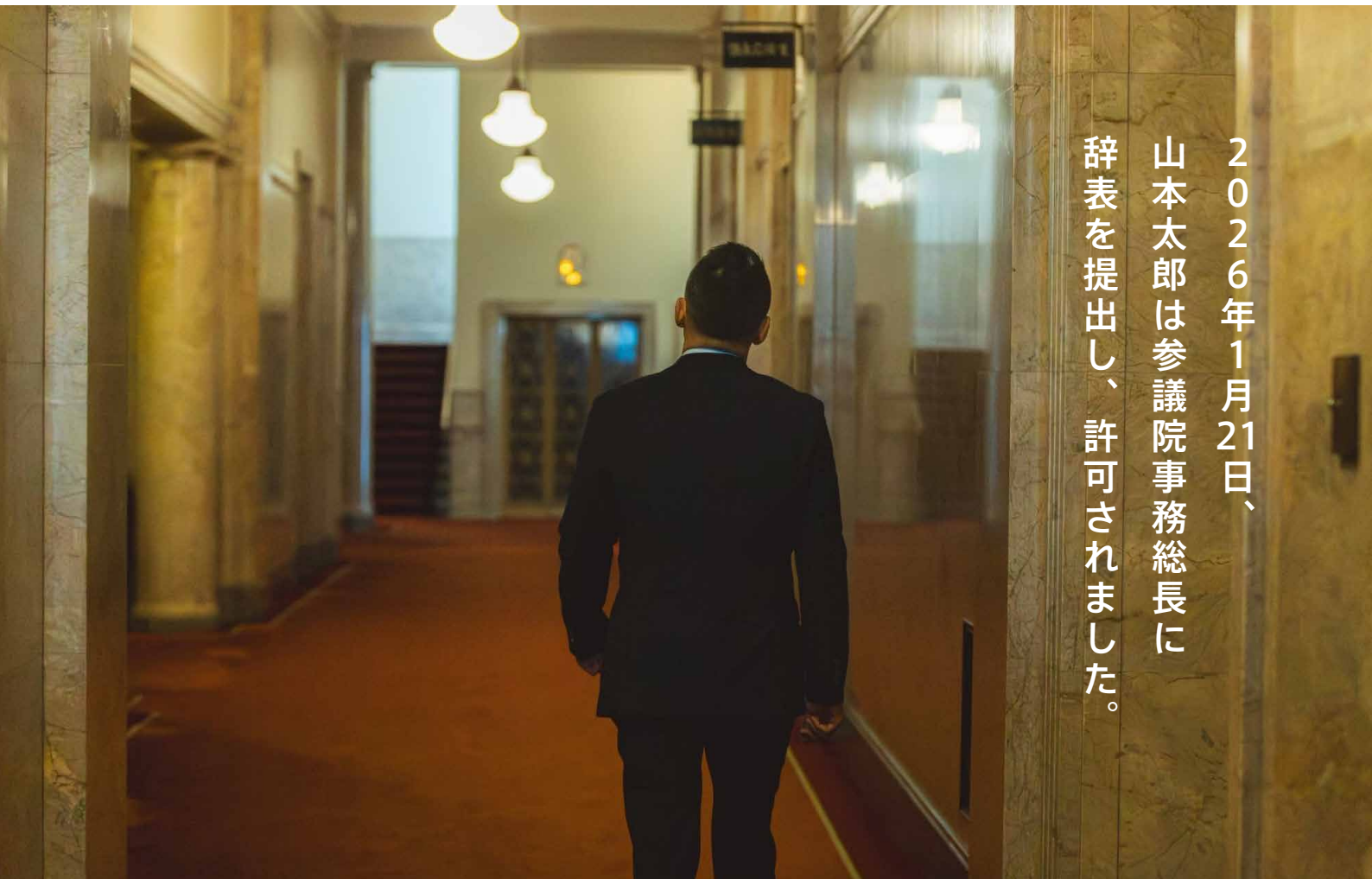
### 高井たかし

私は今から4年3ヶ月前、前々回の衆議院選挙に落選しました。そのとき山本代表から、落選したにもかかわらず幹事長をやれと言われて本当に驚きました。当時私は国会議員じゃありませんから、山本代表の事務所に毎日勤務し、仕えて参りました。そういう意味では山本太郎イズムを間近に見てきた者として、しっかり幹事長として党の運営に、山本太郎イズムを引き継いでいきたい。本当に困ったときには代表に相談をして運営していきたいと思っています。山本太郎という国会議員は稀有な人

というか、**国会議員という仕事をこんなに一生懸命やってる人を私は見たことがない。**党の政策審議会で代表が必ず出てきて、いろいろ法案の意見を言う。他の党、あんまりやってませんよ。だから今回、病気が発覚して代表が辞めるって聞いたとき、辞めなくていいと思いました。他の党だったら辞めませんよ。だって国会の質問なんか一問もしない党首とか、重鎮みたいな格好をして何にもしてない人がいっぱいいるじゃないですか。だけど、それじゃやっぱり山本太郎

はダメなんです。れいわ新選組の国会議員はそうじゃダメなんだと、気付かされました。代表の決断を尊重して、絶対に帰って来てくれると信じて、それまではこの3人でしっかり支えます。そして必ず、政権交代ができる野党再編の中核となるれいわ新選組になって、政権交代を実現したい。**私は山本太郎総理大臣を誕生させたいと思っています。**





2026年1月21日、  
山本太郎は参議院事務総長に  
辞表を提出し、許可されました。



れいわ新選組  
HPはこちら



れいわオーナーズ  
ご案内はこちら  
あなたが、れいわ新選組の  
オーナーになりませんか？



ご寄附の受付  
れいわ新選組は、皆さまからの寄  
附をお願いしております。頂きま  
したご寄附は、れいわ新選組が取  
り組んでいる政治活動、事務所運  
営等に活用させていただきます。

れいわPRESS  
第18号



発行・れいわ新選組 れいわPress編集部  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-5-20  
押田ビル4階  
TEL:03-6384-1974